

麻生多摩美の森だより

麻生区市民健康の森 一麻生鳥のさえざり公園一

第40号 2014年1月31日発行 発行：麻生多摩美の森の会

発行責任者；間野 洋 編集者；木村 信夫

森でうれしい人と地域の出会い 第13回植樹祭&収穫祭 実行委員長 間野 洋

植樹祭&収穫祭は、例年当会と多摩美みどりの会の共催で開催してきましたが、諸般の事情で今回は当会主催、川崎・多摩美の山トラストの会后援、多摩美みどりの会協賛という形で開催されました。また、トラストの会主催の「森の展覧会」（11月17日～23日）も同時に開催されました。（詳細は3頁）

当会はここ数年、里山風の自然豊かな森づくりとともに地域との交流に重点をおいて活動してきましたので、今回のイベントのコンセプトを「森でうれしい人と地域との出会い」、またキャッチフレーズを「森のごちそうと音楽で祝おう」としました。

11月17日当日は風もなく快晴の天候で、例年になく出足好調、最終的には256名の参加者を数え、今までの最高を記録し盛大に行なわれました。近隣町会からは山本多摩美町会長、川戸若葉町会長、松沢前若葉町会長の出席をいただきました。

開会行事終了後、子供たちと父母の皆さんを4班に編成し、まず「暮らしに役立つ植物たち」を観察しました。樹種は中央広場にあるコナラ、クヌギ、エノキ、ホオノキ、マユミ、チャ、クロモジ、ミツマタの8種類。昔

から里山の植物が人間の生活に密接に関係し、活かされてきていたことを再認識できました。次に記念植樹はアジサイ3本、オオムラサキツツジ1本を4箇所に植樹し、樹名札に植樹者の名前を記入し終了しました。

続いて収穫祭・交流会では多田麻生区長より祝辞、乾杯の音頭をいただき交流会がスタート。当森の畑で採れた里芋がメインの豚汁、茹で里芋（柚子味噌付き 写真左）、子どもたちには別にフランクフルト焼きとマッシュマロ焼きなど、秋の味覚を楽しみながら地域の皆さんとの楽しい交流会となりました。

続いて森の音楽会は日本女子大生6名によるフォルクローレ。「コンドルは飛んで行く」など南米音楽を楽しみました（写真右）。

後片付け終了後、招待者・関係者40名以上の参加で懇親会を開催。大いに交流できました。

最後に、このイベントの企画から実施を担当された実行委員の皆さん、および料理作りに多くの皆さんの御協力をいただきました。お陰で盛大な植樹祭&収穫祭が開催でき、ここに改めて感謝を申し上げます。



◆ 西生田小5年生、3年生 「森の体験学習」実施される 副会長 中谷一郎

● 5年生の「環境体験学習」

5年生 139名の環境体験学習が、麻生区市民健康の森で、10月15日（火）、17日（木）に、各日2クラスずつで実施されました。

学習内容は前年とは同じく、①暮らしに役立つ植物たちの観察、②樹木の二酸化炭素吸着量の測定の2項目とし、当会の会員と自然観察指導員の高橋英さんを中心に2日間、延べ23名で指導しました。

まず、間野会長が当日の学習の全体的な説明、とくに樹木の役割、葉の光合成のしくみと樹木が吸収する二酸化炭素量の計算方法について、次に木村さんが暮らしに役立つ植物たちについて話をし、2つを交互に実施しました。

① 暮らしに役立つ植物たち

里山の草木がどれほど私たちの生活に活かされているかを、森を巡回しながら学ぶものです。8、9人編成の4班にガイド各1人がついて説明。ガイドは植物ご専門の高橋氏、佐藤登紀子氏と会員3名が当たりました。取り上げた植物は9種。広場周辺のコナラ・クヌギ・エノキ・ホオノキ・マユミ・チャ、通路沿いのクロモジ・ミツマタ、下の畑のキリです。利用は、衣・食・住に、生活用具に、エネルギーにと多彩で、エノキのように国蝶オオムラサキの餌、旅



5年生 暮らしに役立つ植物たちの観察

人が休んだ木陰になるものもあります。茶と和菓子（ワラビ餅）とお菓子を食するときの高級爪楊枝（クロモジ）というように、日本の伝統文化も森の植物あってこそ。それらの恩恵を活かしてきた先祖たちの知恵の説明に子どもたちは頷いていました。それぞれの場所には樹種名パネルと、実物・資料（コナラとクヌギではどんぐりの赤ちゃんと実ったドングリと椎茸栽培の写真、ミツマタでは和紙原料となる枝の皮とお札）を置き、カラーリーフ「観察マップ」を使用し説明しました。

② 樹木の二酸化炭素吸着量測定

例年通り、班別に樹木の幹周を測定し、葉面積×吸着指数＝CO₂量（kg/年）を算出し、人間が排出するCO₂何人分に当たるかを計算しました。

● 3年生の「秋の森の体験学習」

11月21日（木）に、麻生市区民健康の森で、全4クラス、138名の児童と先生で午前中、実施しました。指導は例年と同じく高橋英さんと会員7名。すでに春、夏の森の観察をしており、かなり理解を深めています。冬の観察会が終われば1年間の森の感想文ができ上がるのが楽しみです。

（1）タネの旅立ちは4クラス同時に実施。①モミジ（風で飛ぶ）②ヨウシュヤマゴボウ（鳥に食べられて）③イノコズチ（ひつつき虫）④コナラ（ころがる）の各樹木に説明者がつき、クラスごとに巡回しました。

（2）森の観察と（3）ネイチャーゲームは2クラス交代で実施し、（2）と（3）の疑問があれば藤棚下のテーブルにドングリ、クサギ・モミジの種子、ムラサキシキブ、写真などを置き、子供たちは高橋英講師に熱心に質問していました。

◆「タネの旅立ち」を教えて

小西邦弘

植物は子孫を残すために、いろいろな工夫を凝らし、種子散布をしますが、私の担当は鳥に運んでもらう「ヨウシュヤマゴボウ」。明治初年にアメリカから渡来し野生化した帰化植物で、赤い茎と濃い紫の実が特徴で、紅葉も中々美しい多年草です。この辺にはごく普通にたくさん見られる植物ですが、残念なことに今年はずでに盛りを過ぎて、実は乾燥し、葉もほとんどが落葉して哀れな姿の株ばかり。やっと説明に使えそうな株を選んでその前で説明をしました。

実のついた茎をとって「これは何色かな」とたずねると元気よく手を挙げて、赤、紫と答えてくれました。この2つの色の対比が「二色効果」として鳥によく目立つものであり、この草は鳥にタネを運んでもらうために、タネの準備が整った時に茎を赤くし、実を紫に色づけて、鳥たちに「ご馳走ができましたよ」と教えることを説明すると、みんな「へー」という感じで頷きました。枯れた実をつぶして中に10個前後入っている小さくて固い種子を示しながら、これがそのまま糞の中に出されると説明すると納得してくれます。

7分間という時間の中でどれだけ解りやすく話ができただかを考えると、子供たちに教えるということは自分も学ぶことであるということを実感した時間でした。



3年生 タネの旅立ちの学習

■「森の展覧会」を開催しました

岡村克彦

市民にとっては貴重な里山である「多摩美の森」の、いろいろな利用の仕方を求めて、川崎・多摩美の山トラストの会（代表 岡村）では、2013年11月17日から1週間、第2回「森の展覧会」を開催しました。

この提案型イベントは、「子どもゆめ基金」の助成と、市教育委員会、麻生多摩美の森の会の後援をはじめ、関係諸機関・団体の協力と、西生田小学校、百合丘小学校などの学校単位の参加のほか、多くの市民の自発的な参加を得て実施することができました。

メイン会場の麻生区市民健康の森と森に通じる多摩自然遊歩道沿いには、秋の「森のアトリエ」で大勢の参加者によって画かれた「大キャンパスの絵」（写真）をはじめ、森の写生画や公募作品、木彫などが展示されました。また、森の入口の「ギャラリー 樺」、「ちゅうりん庵」、「カフェ・ド・シュロ」などにも、小学生をはじめアマチュアからプロの絵画やステンドグラス、粘土細工、木彫など様々な作品が展示されました。



そして、11月17日（日）には、同時開催の「多摩美の森 植樹祭&収穫祭」（1頁）において、森の木を使った燻製で森の香りを味わい、日本女子大学folklore同好会による音楽会、「木の実の標本箱づくり」や「葉っぱの絵本づくり」にも多くの方々に参加いただきました。

豊かな生態系に恵まれた多摩美の森には、きれいな空気や景色が人びとの心を癒し、より豊かにしてくれる様々なエネルギーがあります。市民にとっては掛替えのない生活基盤であり、この森を保全管理している「麻生多摩美の森の会」の活動のお蔭です。

●カリタス女子中学校のクリスマス奉仕 中谷一郎

12月18日が雨の予想のため、17日(火)だけで、3年生195人全員で実施しました。川崎市公園緑地協会の野牛氏の説明のあと、A森林整備隊(多摩美ふれあいの森)、B鎌使用蔦切り隊(市民健康の森)、C鋸使用竹切り隊(こもれびの森)の3隊が各26名で作業を開始。A隊は多摩美みどりの会の指導で下草刈り、枯れ枝の切断を行い、カントリーヘッジ風を集めました。B隊は鶯のお宿の斜面地で、県森林インストラクターの指導によりブタクサ、シノダケを覆うカラスワリ・クズの蔓の除去。C隊は人材バンクの人たちを含め下草刈り、竹切りを実施。その他の学生は3ブロック各40名、計120名で野牛氏が直接指導し、健康の森の広場の北、西斜面の枯れ枝集めを実施しました。

人海戦術は見事に成功し、見る見るうちに綺麗になりました。最後に、使った鎌、鋸、はさみの手入れをしました。すべての所が見違える様で、怪我もなく、感謝しています。



●7区市民健康の森交流会 中谷一郎

11月24日(日)小田急読売ランド前駅に朝9:30に集合し、遊歩道を歩き、まず多摩緑地保全地区の丘陵で、こもれびの会の加藤代表から、会では誰もが一緒に汗を流すことを第1にしているという会のモットーを聞き、良く整備された森の中で、長崎で被爆した山王神社の天然記念物クスノキのタネから育てた苗(2世)をここで育て、自然環境を大切にしていることなどの話を聞きました。

次に市民健康の森では藤棚の下で、森づくりの状況や管理棟、バイオトイレを見てももらいました。ふれあいの森、カントウタンポポ園では多摩美みどりの会の小座間会長が資料を示しながら活動を説明、次いで「多摩美斜面緑地」の保全活動の経過について川崎・多摩美の山トラストの会の岡村代表から聞きました。

最後は多摩美町会会館で会議、楽しい懇親会で充実した1日を過ごしました。

●今後の活動予定 副会長 中谷 一郎

2014年最初の会報です、2013年を表わす漢字は「輪」でした。暮れには植樹祭&収穫祭をはじめとし、西生田小学校の環境学習などのイベントがたくさんありました、近隣の森の会の人たちとの小さな「和」を一層大切にしながら、本年初頭から森の環境保全管理活動に無理をせず、皆でゆっくと取り組み、汗を流したいと思います。

- 2月 1日(土) 幹事会、樹木の間伐、清掃
夜 冬の星空の観測会(オーロラ天文台主催)
- 2月 6日(木) 西生田小3年生 冬の森の観測
- 2月15日(土) 麻生プレーパークへの協力
- 2月16日(日) 畑の手入れ、アズマネザサの蔓除去
- 3月 1日(土) 畑の追肥、樹木の手入れ、清掃
- 3月 8日(土) 2014 里山フォーラム in 麻生
- 3月16日(日) 樹木の剪定、アズマネザサ整備
- 4月 5日(土) 草刈り、畑の整備、清掃
- 4月20日(日) ゴミの収集、清掃
- 4月26日(土) 第12回通常総会
会場: 区役所4階会議室(予定)
時間: 午後3時半~5時
- 5月 3日(土) 樹木の手入れ、草刈り、畑整備
- 5月18日(日) サトイモの植付け、下草刈り
この間補助作業日は第2、第4水曜日です。
10月~5月の作業時間は10~12時です。

★会員募集中です 一度見学にお出で下さい。里山の楽しさを親子で味わってください。年会費1,000円。

●麻生区のホームページで、市民健康の森を紹介、本紙のバックナンバーも見られます。
<http://www.city.kawasaki.jp/asao/page/000028128.html>

◆皆さんの投稿、感想をお寄せ下さい。

<問合せ・連絡先>

間野 洋 044-966-7233

mano-h@jcom.home.ne.jp

木村信夫 044-954-7855

kimura-yatsu@nifty.com